

# 2020年の先のリユース社会へ

～オリンピック・パラリンピック東京大会を契機に～

## リユース食器ネットワーク

事務局：一般財団法人 地球・人間環境フォーラム  
東京都台東区蔵前3-17-3 蔵前インテリジエントビル8階  
TEL：03-5825-9735 FAX：03-5825-9737  
MAIL：info@reuse-network.jp

リユース食器ネットワーク会員団体  
NPO iPledge

東京都渋谷区神宮前1-10-34 原宿コーポ別館308  
TEL：03-6804-3003 FAX：03-6804-3004  
MAIL：info@ipledge.jp

# リユースカップ、リユース食器とは？

使い捨て容器に替えて使用する、再使用（リユース）する食器

- ◆ドイツのサッカー場などで1990年代から使用されていた
- ◆軽く、落としても鋭角的に割れない柔軟性に富むプラスチック素材が多い
- ◆ポリプロピレン（PP）製の容器は耐熱温度120℃、対冷温度-30℃
- ◆ていねいに扱えば200回以上繰り返し使用可能。
- ◆学校給食の食器を入れ替える際に、まだ使える食器を再利用することも
- ◆2003年～日本各地のサッカー場や、お祭、イベント会場で利用
- ◆食器の洗浄・保管を社会福祉施設が実施している例も。障害者の雇用創出に。



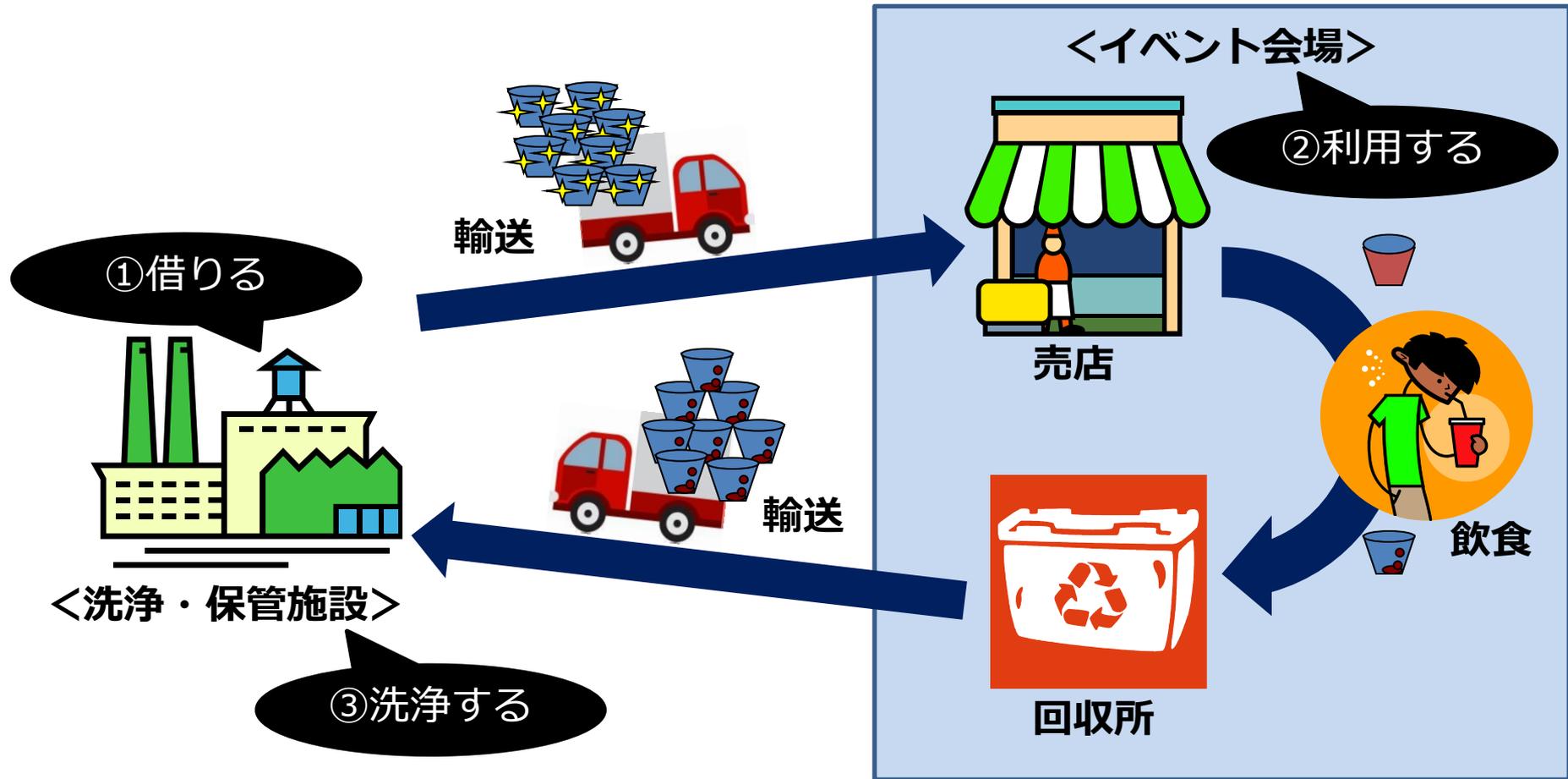
ドイツのサッカー場の様子



カップ、お皿、おわん、どんぶり、箸等様々な種類がある<sup>2</sup>

# リユース食器の仕組み①

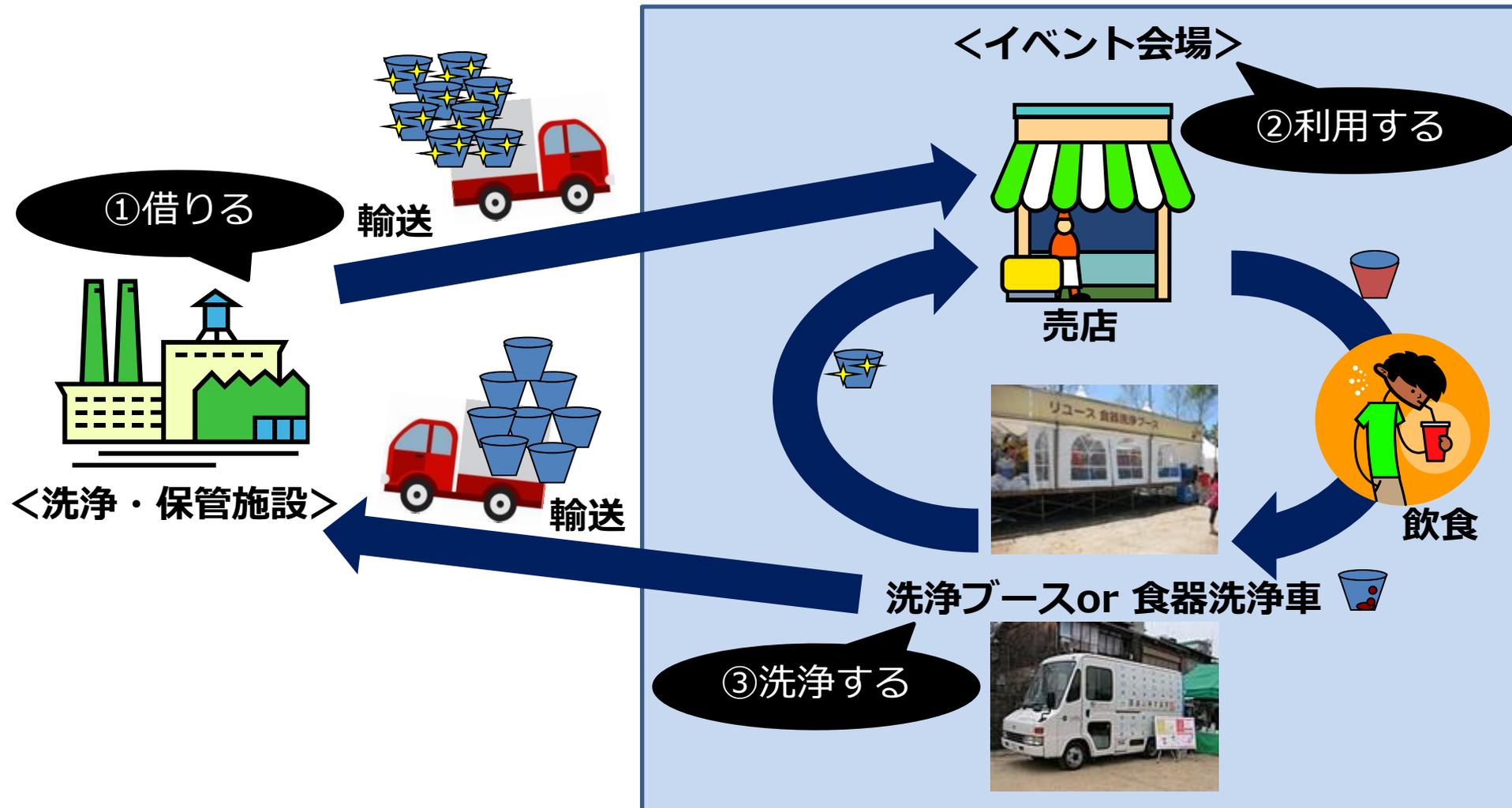
リユース食器を保有する団体から食器を借りて使用後は返却するケース



来場者自身が容器を持参するマイ食器、マイボトルという取り組みもあります

# リユース食器の仕組み②

特設の洗浄ブースを設けるなどして、会場内で洗浄・利用を繰り返す

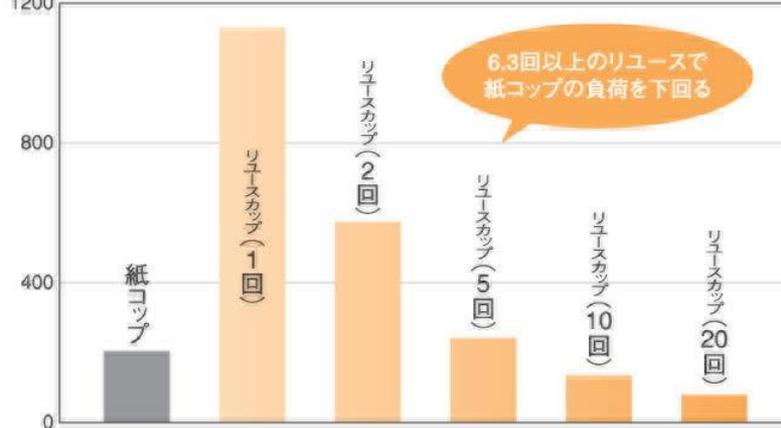


※実際の洗浄風景を来場者に見せることで環境教育の効果も期待できます。

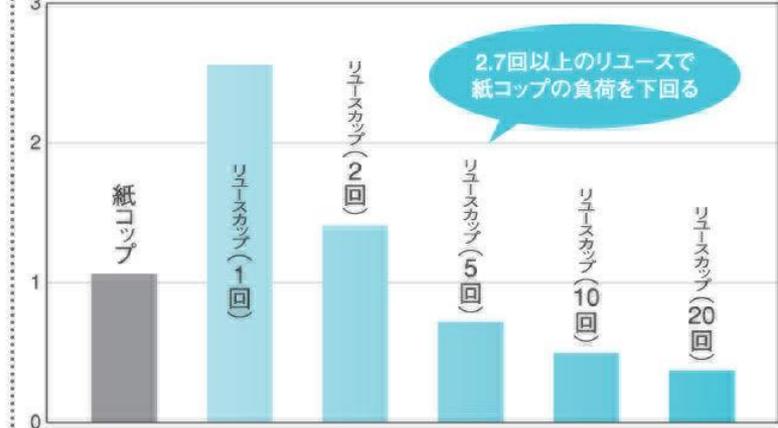
# リユースカップの環境負荷低減効果

リユースの回数に応じた環境負荷（使い捨て紙コップと比較）

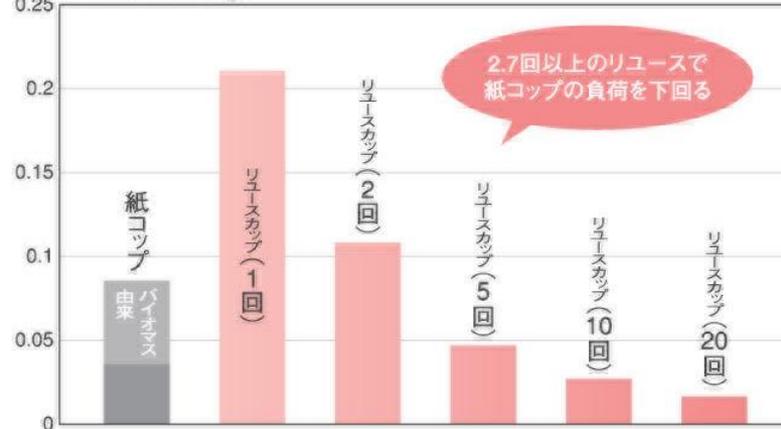
エネルギー消費量 (kcal)



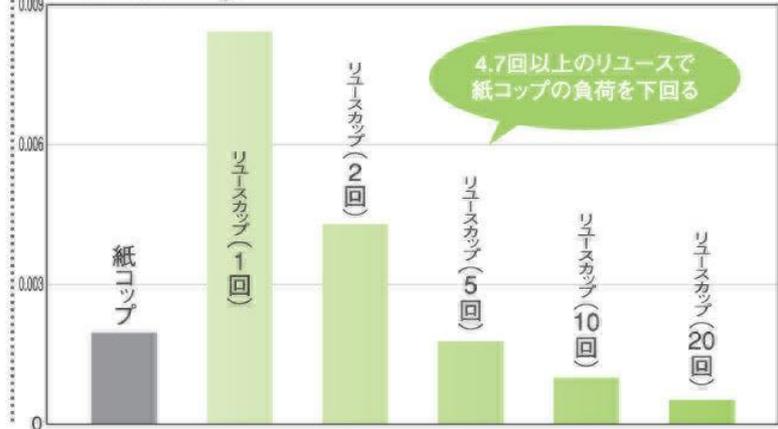
水消費量 (kg)



CO<sub>2</sub>排出量 (kg)



固形廃棄物 (kg)



東京大学安井研究室実施のLCA※分析をもとに作成

※ライフ・サイクル・アセスメント (Life Cycle Assessment)

原料採掘段階から生産・使用・輸送・廃棄段階に至るまで、製品の一生(ライフサイクル)を通じた環境への影響を定量的に分析、評価する手法。

# リユース食器導入事例

- ・ サッカー場  
山梨中銀スタジアム  
デンカビッグスワンスタジアム  
等々力競技場
- ・ 野球場（実証実験等）
- ・ 音楽イベント、コンサート
- ・ フードコート
- ・ 映画館
- ・ オフィス
- ・ スポーツイベント（国体など）
- ・ 音楽イベント、コンサート
- ・ 環境イベント、食のイベント
- ・ お祭り、学園祭
- ・ 会議、展示会
- ・ 結婚式、バーベキュー
- ・ バザー、フリーマーケット
- ・ 海の家
- ・ 避難所など



<リユース食器が大規模に利用されたお祭やイベントの例>

- 祇園祭（2014年7月15～16日）  
露天商の協力のもと、リユース食器20万個 が導入された。史上最大規模。
- ap bank fes '12（2012年7～8月、7日間）  
つま恋（静岡）、淡路島（兵庫県）、みちのく（宮城県）会場の3カ所で開催。  
皿24万275個、カップ13万8,348個、合計37万8,623個を使用

# リユース食器ネットワーク

リユース食器を中心に3Rの活動に取り組む全国をつなぐ

- ◆ 情報交換と情報発信の強化を目的に2005年に設立
- ◆ 全国43のNPO/NGO・企業が参加し、各地域で独自の活動を展開
- ◆ リユースカップの共同購入や大口の注文に対する共同貸出等を実施

会員が行う3つの取り組み

食器の貸し出し

食器の洗浄

イベントへの導入  
コーディネート



[www.reuse-network.jp](http://www.reuse-network.jp)

# 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会をごみゼロに

## <1964年大会>

⇒戦後復興・高度経済成長を世界に印象付けた

## <2020年大会>

⇒人類共通の課題に対する解決策を提示する大会に

※2020年は温室効果ガス排出削減目標と生物多様性保全に関わる愛知目標の目標年

- ◆開催期間中に国内外から1,000万人以上が来日する一大イベント。膨大な廃棄物の排出が予測される
- ◆気候変動、生物多様性の損失といった人類共通の課題に対する解決策を世界に示すためにも、ごみゼロを目指した大会運営がなされるべき
- ◆温室効果ガスの排出を減らし、天然資源投入の抑制につながるリユース食器の導入は不可欠ではないか

## 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を契機に

リユース食器を中心とした3Rの取り組みを10年以上推進し、大小問わず、数多くのイベントやお祭で環境対策を実施し、蓄積してきたノウハウをしっかりと提供する。



2020年オリンピック・パラリンピックがごみゼロの大会となり、さらには、国内外の人々の価値観や、社会の仕組みを変え、循環共生型社会に向かうきっかけに。

# 市民の力でごみゼロにしよう！ 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会

## ◆目的：

- ・オリンピック・パラリンピック開催期間中および関連イベントにおいて、リユース食器を活用したごみゼロ活動が基本となるよう働きかける
- ・リユース食器の導入サポートとリサイクル計画の立案と実施
- ・来場者への資源分別ナビゲートの実施とボランティアコーディネート

## ◆実施内容

- ・環境対策ボランティアのコーディネート
- ・リユース食器オペレーションの実施
- ・飲食出展者へのリユース食器貸し出し
- ・資源の分別活動と再資源化
- ・散乱ごみの清掃活動
- ・ごみゼロ活動に関する調査と普及啓発

## ◆事務局

一般社団法人 地球・人間環境フォーラム

## ◆主要構成団体

NPO法人 iPledge

NPO法人 地域環境デザイン研究所ecotone

認定NPO法人 スペースふう

# 2020年の先のリユース社会へ

## ～オリンピック・パラリンピック東京大会を契機に～

リユース食器は、使い捨て容器のごみを削減するだけでなく、環境のことを考え、普段のライフスタイルを見直すきっかけづくりのツールでもあります。

オリンピック・パラリンピック東京大会を契機として、リユース食器の取り組みを東京大会に取り込んでだけでなく、首都圏はもちろん、日本国内において当たり前のものでして定着させ、リユース社会を構築することを目指します。